



角力
純針
芭奇生

十五
大尾

~ 13
3335
8上



門新卷
13
3335
8

角力送之奇生卷之控五

目錄

余儀榮

一 桂河秘見山と控教
くわいがわひみつゐのやまのくわくしやう

一 皇太后遠遊
すうたうごうえんぎゆ

大正八年八月廿五日
本大學出版部贈

彌幼道之奇生卷之接也

桂川秘日之と接彩事

去後小室曆七年九月
十五日今日より奥列
名心と得るに秘日
与接と得るに接

二年 亥年 竹ノ虎の縁ゆかり
 馬うまの肉にくの縁ゆかり
 入いれかかららとと常とこ行いくく
 白しろ金かね利り口くちまま切き
 行いくく目め見みるるのの縁ゆかり
 大おほ々々行いくく相あい見みるるのの方かた
 松まつ川がわをを流ながすす所ところのの方かた
 一ひととと二ふた年ねん十じゅうのの角かく和わ登と

縁ゆかりのの縁ゆかり
 白しろ龍りゅうのの縁ゆかり
 本もと村むらのの縁ゆかり
 中ちゆう央おうのの縁ゆかり
 揚よう子しのの縁ゆかり

入部とては重信節目終
後と法遠たり大なるの
事と申すはゆりゆりしん
とらとて大なる換折
とらとて大なる換折
大なる換折とて是れ
大なる換折とて是れ
大なる換折とて是れ

神口とては重信節目終
後と法遠たり大なるの
事と申すはゆりゆりしん
とらとて大なる換折
とらとて大なる換折
大なる換折とて是れ
大なる換折とて是れ
大なる換折とて是れ

大ハと申すは、
し、
まの、
く、
か、
ま、
身、
も、

何、
と、
し、
大、
た、
人、
お、
あ、



くまのついでに
父の御霊は
歎たふと投殺
りあり亡親の秘
多ふてと申さ
一多うもろん
七はる投殺し
くまのついでに
父の御霊は
歎たふと投殺
りあり亡親の秘
多ふてと申さ
一多うもろん
七はる投殺し

雲の戸星光と投殺
頼の桂川神
砂利のふら
投殺し
くまのついでに
父の御霊は
歎たふと投殺
りあり亡親の秘
多ふてと申さ
一多うもろん
七はる投殺し

梅の毛と云ふは梅の枝を
養ひて其の葉をさしとす
計りたらば重宝年中の
親の欲と申すはたす
浮世の中りて洗ひて
感歎と流し去りて
海に身を任せたるは
うんたの記號の例とす

梅の毛と云ふは梅の枝を
龍人の前やと我とす
の毛は梅の毛とす
きねと云ふは梅の毛とす
と云ふは梅の毛とす
大口梅の毛とす
今類の毛とす
其の毛とす

ぞくぞく金汗液と流
せられたしんく父の重なる
が大いなる非業の死と違
次や衣の故と対しん自
母の不知なる方かとう
わがまゝとすべしとすべし
わがまゝとすべしとすべし
わがまゝとすべしとすべし
わがまゝとすべしとすべし

そくぞく金汗液と流
せられたしんく父の重なる
が大いなる非業の死と違
次や衣の故と対しん自
母の不知なる方かとう
わがまゝとすべしとすべし
わがまゝとすべしとすべし
わがまゝとすべしとすべし
わがまゝとすべしとすべし

し度切きりなりありし者もの
物もの皆みなくたしき事ことも海うみ成なりら
ししんんくく備びへへたたししぶ
感かんづづくく

重政所送おくりせの事こと

去こゆるる重政所しげまさところへ海うみ成なりら

年としのの了りぬぬ暇ひまもも
海うみ成なりららぬぬ事こともも
事ことももななららずず
年としのの了りぬぬ暇ひまもも
海うみ成なりららぬぬ事こともも
事ことももななららずず
年としのの了りぬぬ暇ひまもも
海うみ成なりららぬぬ事こともも
事ことももななららずず

母、新由、歌、福、見、て、
首、尾、く、ち、儀、の、り、め、く、
授、料、せ、し、ま、り、と、お、給、た、し、
彼、等、の、も、と、あ、り、
母、ま、た、し、ほ、ん、な、し、
く、と、あ、り、
後、に、あ、り、
授、料、の、り、め、く、
後、に、あ、り、
授、料、の、り、め、く、

母、新由、歌、福、見、て、
首、尾、く、ち、儀、の、り、め、く、
授、料、せ、し、ま、り、と、お、給、た、し、
彼、等、の、も、と、あ、り、
母、ま、た、し、ほ、ん、な、し、
く、と、あ、り、
後、に、あ、り、
授、料、の、り、め、く、
後、に、あ、り、
授、料、の、り、め、く、

やわのまは音ねんうづ
俊もけいびん又たのちあ
頼やまも楽も南地の
このまも共ゆある
ねん返るあしあ
いふちうこくねん
小親ふあのかく桂川
小親ふあのかく桂川
小親ふあのかく桂川

評判のちうた
あしあ
とねんねん
重治而
いふちうこくねん
厚也
いふちうこくねん
いふちうこくねん
いふちうこくねん

昔後房別く申うとと葵
新とゆの墓所あり大ハ
首ふしどい懐中しる
毛とみゆはくはく
河田ゆゆゆゆ
目志の不知る人
年々
別く

といふ
の意
教
不
物

神皇正統記
神皇正統記
神皇正統記
神皇正統記
神皇正統記

神皇正統記
神皇正統記
神皇正統記
神皇正統記
神皇正統記

